

泉崎村まち・ひと・しごと創生《地方創生加速化交付金》実績評価シート

平成 30 年度分		担当課	中央公民館					
事業名		泉崎村魅力発見発信事業						
事業の概要・目的		<p>鳥峠の魅力を再発見するための自然観察学習やオリエンテーリングなどの指導者の養成、実行委員会を組織して鳥峠頂上にてかたくり祭り、園児、児童を対象とした自然観察会などを開催。鳥峠稲荷神社本殿の保全整備。泉崎駅東口の整備を図り、利用者の増加と村観光資源の活用や人の流れ誘客を図るため、駅東口周辺の整備計画の策定をする。</p> <p>今後、これらの施策を基礎として、周辺地域で就業しても生活の場として泉崎村が選択されるよう、村の自然環境を活かしつつ、住まいの確保や交通利便性の向上を図っていく。また、結婚や子育ての前提となる住まいの確保への支援、さらには、スポーツ施設や文化財等の村の観光資源の魅力向上に努め、多様な情報発信を進めていく。</p>						
交付金を充当する事業経費								
個別事業名 1		鳥峠を中心とした各種取組						
最終予算額		563,000 円			執行済額	560,766 円		
目標事項 ・進捗状況		目標事項	鳥峠等案内人の養成研修会開催件数					
		K P I	2 回 (29 年 3 月)、5 回 (令和 2 年 3 月)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	0	0	1	2	3	
		達成率	—	0%	20%	40%	60%	
目標事項 ・進捗状況		目標事項	魅力発信に係る大会イベントの開催					
		K P I	2 回 (29 年 3 月)、5 回 (令和 2 年 3 月)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	0	0	7	6	7	
		達成率	—	0%	140%	120%	140%	
目標事項 ・進捗状況		目標事項	村伝統芸能継承者数 (団体数)					
		K P I	2 団体 (29 年 3 月)、4 団体 (令和 2 年 3 月)					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値		2	2	2	2	
		達成率		50%	50%	50%	50%	
事業の概要	計画 (P)	<p>幼小中学生の泉崎村の魅力発見や近年では関心が高まっている健康増進のための遊歩道整備。「鳥峠の自然を守る会」の会員を活用した自然観察会。さらには、実行委員会を組織し、鳥峠頂上にて「かたくり祭り」を行い、村外の多くの方々に広く PR をし、村民の憩いの場としての再認識を図る。併せて、神社本殿に存する村指定文化財の保全活用活動も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師謝金及び事業に係る食料費 250 千円 ・鳥峠管理経費及び魅力発信事業等経費 250 千円 						

具体的な取組	実施(D)	<p>【講師謝金及び事業に係る食料費】 鳥峠の自然の魅力を知ってもらうために、自然観察会を行い、頂上では子供たちに鳥峠自然を守る会女性会員手作りのカレーライスを食べてもらった。</p> <p>① 4/7 鳥峠かたくり祭り開催 150名 ② 5/11 鳥峠の樹木・山野草の学習会 20名 ③ 6/18 泉崎第2小学校自然観察会 4年生35名 ④ 6/9 鳥峠林道草刈り 15名 ⑤ 7/24 夏休み親子自然観察会 40名 ⑥ 8/21 村内教職員自然観察会 30名 ⑦ 9/1 グレーダーによる鳥峠林道整備 ⑧ 9/14 鳥峠の樹木名札付け(兼研修会) 10名 ⑨ 9/10 鳥峠林道草刈り 15名 ⑩ 10/12 幼稚園自然観察会 年長組70名 ⑪ 11/5 泉崎第2小学校自然観察会(2回目) 35名 ⑫ 11/13 泉崎第1小学校自然観察会 30名 ⑬ 11/15 鳥峠樹木名札付け(兼研修会) 9名 ⑭ 1/1 日の出を見る会 村民 100名 ⑮ 3/6 鳥峠清掃 15名</p> <p>【鳥峠管理経費及び魅力発信事業等経費】 鳥峠の維持管理のための道具を購入し草刈り作業を実施。 またグレーダーを委託して林道の整備を行った。</p>	
		<p>30年度評価</p> <table border="1"> <tr> <td>担当課評価</td> <td> <p>【講師謝金及び事業に係る食料費】 子どもに鳥峠の魅力を伝えることにより、その子の親、祖父母などの鳥峠来訪者が増えている。</p> <p>【鳥峠管理経費及び魅力発信事業等経費】 草刈りや、それに伴うごみ拾いなどを行い遊歩道や林道は綺麗に管理できている。</p> </td> </tr> </table>	担当課評価
担当課評価	<p>【講師謝金及び事業に係る食料費】 子どもに鳥峠の魅力を伝えることにより、その子の親、祖父母などの鳥峠来訪者が増えている。</p> <p>【鳥峠管理経費及び魅力発信事業等経費】 草刈りや、それに伴うごみ拾いなどを行い遊歩道や林道は綺麗に管理できている。</p>		
30年度	改善(A)	<p>令和元年度における取り組みなど</p> <p>村内だけではなく村外の人にもPR出来るイベントを開催する。 かたくり祭りを単年だけでなく通年の事業にして鳥峠をPRする。</p>	
	委員会意見	<p>評価等に対する意見</p> <table border="1"> <tr> <td>委員会評価</td> <td>総合戦略のKPI達成に有効であった。</td> </tr> </table> <p>B</p>	委員会評価
委員会評価	総合戦略のKPI達成に有効であった。		

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

泉崎村まち・ひと・しごと創生《地方創生加速化交付金》実績評価シート

平成 30 年度分		担当課	事業課産業係					
事業名		泉崎村魅力発見発信事業						
事業の概要・目的		<p>鳥峠の魅力を再発見するための自然観察学習やオリエンテーリングなどの指導者の養成、実行委員会を組織して鳥峠頂上にて伝統芸能の発表会などを開催。鳥峠稲荷神社本殿の保全整備。泉崎駅東口の整備を図り、利用者の増加と村観光資源の活用や人の流れ誘客を図るため、駅東口周辺の整備計画の策定をする。</p> <p>今後、これらの施策を基礎として、周辺地域で就業しても生活の場として泉崎村が選択されるよう、村の自然環境を活かしつつ、住まいの確保や交通利便性の向上を図っていく。また、結婚や子育ての前提となる住まいの確保への支援、さらには、スポーツ施設や文化財等の村の観光資源の魅力向上に努め、多様な情報発信を進めていく。</p>						
交付金を充当する事業経費								
個別事業名 3		移住者限定・賃貸住宅斡旋に関する取組						
最終予算額		2,148,000 円			決算額	1,857,099 円		
目標事項 ・進捗状況		目標事項	田舎暮らし体験プロジェクト参加者数（世帯数）					
		K P I	5 世帯（29 年 3 月）、10 世帯（令和 2 年 3 月）					
		現状値	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度	備考
		数 値	0	0	0	0		
		達成率	0%	0%	0%	0%		
事業の概要	計画（P）	<ul style="list-style-type: none"> 若者世代の定住者を増やすため、村の分譲地である天王台ニュータウン及び譲渡型賃貸住宅の PR 活動を行う。（ショートステイ、田舎暮らし体験プロジェクトを含む） 						
具体的な取組	実施（D）	<ul style="list-style-type: none"> 定住促進戸建住宅（賃貸型戸建住宅）の募集チラシ（31,500 枚）を作成し、近隣市町村に新聞折り込みなどで配布することにより PR 活動を行った。また、テレビ放映（県内）による周知も行った。 326,700 円 天王台ニュータウン PR のため B1 サイズのポスターを作成し、首都圏駅構内に掲出した。 ※お盆と年末年始の 2 回掲出。住宅特別会計予算 293,760 円 移住希望者（e-村民）に泉崎村をもっと知ってもらい、村民との交流を図るため、バスツアー、そば打ち交流会、餅つき交流会を行った。住宅特別会計予算 1,236,639 円 						

30 年度	評価 (C)	30 年度評価	
		担当課 評 価	・定住促進戸建住宅(賃貸型戸建住宅)は現在募集中の段階ではあるが、 昨年に比べて問合せが増え、興味を持つ方が多くいると感じる。
		B	
	改善 (A)	令和元年度における取り組みなど	
		<ul style="list-style-type: none"> ・田舎暮らし体験や村民との交流会を実施し、泉崎村をより詳しく知ってもらうことにより移住者を増やす。 ・ポスター掲出による PR 効果が薄いと感ずるため、駅構内のビジョンにて PR 動画を放映する。 	
	委員会 意見	評価等に対する意見	
委員会 評 価		総合戦略の KPI 達成に有効であった。	
B			

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。